

こんにちは、 にいさん

つゆまる

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

刀剣乱舞の二次小説です。

審神者出てきます、しかも男。

注意してくださいね

第1話

目次

1

第1話

調査報告書

最近、バグが発生しているようだ。刀剣達に今のところ害はないが何が起こるかかわからない。今日も鶯の鳴き声とともに桜がひらひらと、舞い落ちる。

しっかりと刀剣たちの体調ともに、日々の生活、進軍に精を出していく――

「……つと、おわったー」

本丸にきて早半年。もうすっかりこなれてきた頃だった。初めは数人の審神者から出てきたバグがいまや全体に広がり異常の報告もされてきていた。幸いこの本丸にはまだ出てきてはならず、日々の刀剣たちの容体チェックを欠かさない。聞いたところによると、バグは刀剣達の服に現れるとか、いくらたくさん資材を使い打刀以上を狙おうとしても短刀や脇差ばかりが出てくる（可愛いから許す、むしろうれしい）などさまざまな報告を耳にした。

「そうだ、長谷部に洗濯物お願いするの忘れてた……長谷部は何処にいるって言ってたっけ？」

報告書に夢中になりすぎて長谷部が言っていたことを半分も覚えていなかった。光忠に頼もうかとも思ったが、短刀達と遊んでいたりするだろうからやめた。

「…自分でやるか」

物干しざおがあるのは今いる部屋から反対側にある、日当たりが良くなるように南側に作られているのだ。自分としてはどうして審神者の部屋を北側に作ったのかと思つたが、審神者の部屋には刀剣たちにも知らされていない秘密の抜け道があるのだとこのすけから聞いた。しかしいまだに抜け道は知らないでいる。

「洗濯物ホントに大量だな…長谷部、大変だな」

長谷部への感謝を感じながら居間に向かう途中、縁側では鶯丸と一期一振りが短刀の子たちを楽しそうに眺めていた。

鶯丸はお茶を飲んでいたので2人と短刀の子たちにお茶菓子でも渡そうと思ひ、いそいそと居間へ入った。

「主…」

と、声が出た方を振り向くと加州がなにやら慌てた様子で近づいてきた。

「どうしよう、さつきき急に長谷部が鍛刀部屋から勢いよく飛び出してきて主を探しに部屋へ向かったんだけど…」

さつききは洗濯物を干して置いて部屋にはいなかった、ということは今長谷部は部屋だろ

